



Q 湯沢学園での平和教育は どのようなことを行っているか

南 雲 あや子 (文責)



A 相手を思いやる気持ちを 育てることが大切

質問

平和の大切さをどのように考えるか。3年間の中学校生活でたった1回の講演会を聞くことで平和の大切さを自覚した人が育つと思うか。平和教育に対する他の考えはあるか。

答弁

相手を思いやる気持ちを育てることが大切。文化・生活・宗教等、又考え方の違いを理解するための教育が大切。異文化等への深い理解を得られるマブナとの交流も平和教育。

質問

「中学生平和大使派遣事業」を実施しては。近隣の市町ではすでに実施している。

語り部から直接話をお聞きし、広島平和記念資料館で資料を直接目にでき、貴重な体験だ。平和大使が語り部となり発信する。よい平和教育になる。

教育委員会は、町として派遣事業を実施するよう、行政に働きかけていただきたい。

答弁

現在は、中学生全員で直接広島に係わる人から話を聞く講演会を実施する方向。大使という意見もあることを学校に伝え、今後の対応とする。

会計年度任用 職員の処遇改善は

質問

昨年、町長は「会計年度任用職員の皆さんは湯沢町の行政運営を進めている

く上でも重要になってきている。」「給料をはじめ、上げていくことができないか考えている。」「不利益にならないように労働環境を整えていく。」と答弁した。どのように整備したか。

答弁

給与改定を行った。期末手当を0.6125月から0.7月へ。勤勉手当も支給することとした。療養休暇を無給から有給にした。

質問

給与に上限があり、意欲がわかない。長期に欠席している職員の分の仕事もまわってきて、負担が大きい、といった声も聞く。

意欲を持って、その持つ能力を存分に発揮できるよう、手当の月数等の改善を。

答弁

重要な立場なことは認識している。やりがいをもってしっかり仕事をしていただき、それに見合った報酬というのは大事。国に準拠しながら見直しをしている。

質問

自治体の業務は、本来正規職員で担うべきところを多くの非正規で担って

いる。同一労働・同一賃金の観点からも、早急に処遇改善を進めるべき。

答弁

同一労働・同一賃金の理解はある。常勤と会計年度任用職員では業務・責任に違いがあると認識。労働に見合う対価については今後も考えていく。



平成22年6月
湯沢町非核平和都市宣言



認定こども園 日常の様子 楽しそう!!